



### 皆が納得する給料・報酬改革を

植山 太介 議員

**問** 市民評価による、市長給料・議員報酬の出来高制度のような仕組みはできないか。

**答** 条例等で定めて支給することが求められており、条例で定めれば理論上は可能と考える。しかし、客観的な評価指標の設定、運用のタイミング等、かなりの課題があると思われる。

**問** 議員報酬の返金などの取決めがあるのか。

**答** 「霧島市議会議員の議員報酬等の特例に関する条例」の第三条には「議員が自己都合、疾病等により議員活動を引き続き長期間休止した時、議員活動ができない期間に応じて減額割合を乗じて支

給をする」と定めている。なお、返金となると、公職選挙法第一九九条の二の規定に違反する「寄付行為」に該当するため、条例で減額割合を定め、減額されたのちの報酬を支給することとしている。

- その他の質問
- ・本市の市民参画の取組について
  - ・本市の高校生イベントについて
  - ・本市が行った令和4年度の民間参画の新たな取組について
  - ・霧島市地域公共交通計画推進事業について



### 養育費の取り決めに子ども目線での支援を

野村 和人 議員

**問** 子どもの貧困の状況はどうか。

**答** 一つの指標として本市の就学援助費の認定件数は、小学校約25%、中学校約27%である。

**問** 健やかな成長を図るために養育費等についての取り決めはとも重要である。子ども目線での支援ができないか。

**答** 令和4年度の児童扶養手当の現況届において養育費を受け取っている割合は、18.9%に留まっている状況だ。子どもの最善の利益のためにも養育費の意義は大きく、その確保のため、先進的な取組を検証し、支援策について検討する。

**問** 馬立北原線の道路拡幅工事の進捗状況はどうか。また、歩行者の安全対策を早急にできないか。

**答** 石峯工区約1.2kmの進捗率は約40%である。今後も、子ども達が安心・安全に通行できる交通環境整備を推進していく。



法務省パンフレット「こどもの養育に関する合意書作成の手引きとQ&A」より

### 馬立北原線の早期完成を

**問** 馬立北原線の道路拡幅工事の進捗状況はどうか。また、歩行者の安全対策を早急にできないか。

**答** 石峯工区約1.2kmの進捗率は約40%である。今後も、子ども達が安心・安全に通行できる交通環境整備を推進していく。



### 介護予防の強化を図り健康寿命の延伸を

竹下 智行 議員

**問** 身体機能を維持向上させるためには、転倒予防体操を週1回以上の実施が望ましい。現在の「地域のひろば」の実施状況をどう評価、分析しているか。また、自立支援に取り組む事業者やケアマネジャーのケアプランに対して、成果報酬をつける考えはないか。

**答** 月1回の開催が多い。効果の評価、分析は行っていない。事業所に

**問** 霧島市民会館の舞台設備等の改修等は計画的に行われているが、単人農村改善センターや溝辺公民館は設備の不具合がみられる。改修等はできないか。

**答** いずれの施設も大規模な改修や機器の更新の予定はないが、利用に支障がないように、今後も適切に管理していく。



機能訓練の様子



### 国分中央高校の教室内外の備品等の整備を

前島 広紀 議員

**問** 机などの備品及び床やトイレなど、経年劣化の著しい箇所の整備が必要ではないか。

**答** 教室内備品等については、個々の使用期間や使用状況に違いがあり、その劣化状態はさまざまである。日ごろから適切な管理を行い、優先順位を検討し更新している。

### 清水地内の渋滞緩和策は

**問** 県道60号線は、清水地内において慢性的な渋滞が発生し、それを避けるために集落内を迂回する車により、地域住民は不便と危険を強いられている。緩和対策として、旧清水保育園交差点から国分中北東部を結ぶ道路を新設できないか。

**答** 国分中央高校の部活動支援について、感染症対策について



### 地域で活躍する女性人材の育成を

鈴木 てるみ 議員

**問** 総合計画では、審議会での女性委員の割合の目標を40%としているが、現状はどうか。

**答** 各種団体等に女性が少ないこともあり、目標値に届いていない。今後女性の積極的登用を働きかけていく。

**問** 公益性の高い活動（議会や審議会、自治会等）の女性人材を育成してはどうか。

**答** 現在、男女共同参画の考えを理解する「エンパワーメントセミナー」を開催している。指導的役割を担う女性人材育成については、調査研究していく。

**問** 現在のリノベーションまちづくり推進事業を更に発展させてSIB導入を

**問** 現在のリノベーションまちづくり推進事業を更に発展させて、SIBを導入し、霧島市全体で住みよいまちづくりを目指す考えはないか。

**答** SIBは、社会課題の選定や事業者の存在、事業成果の客観的判定基準、資金提供者の確保など、多くの課題がある。他の先進事例を注視しながら調査・研究する。

**問** SIBの導入において、資金をコントロールする公益財団法人を設置し、SIB事業の財源として、休眠預金を活用してはどうか。

**答** 休眠預金を活用する際には、その事業計画の選定があり、休眠預金助成

※1 リノベーションまちづくりとは、自然環境や食、人、空き家・空き店舗など、今ある地域資源を活用した新たな事業を、地域と一緒に「コミュニティ」を育みながら行う民間主導・公民連携の地域活性化の取組

※2 SIBとは、ソーシャル・インパクト・ボンドの略名で、一般市民も資金提供者として参画して、行政や民間事業者と一緒に地域の課題解決に取り組む。成果は報酬として受け取れる新しいまちづくり手法

※3 休眠預金とは、10年以上、出入れが無い預金で、毎年約700億円計上されている。行政では対応できない地域の課題解決を図ることを目的として、民間団体が行う公益活動に休眠預金が使われ、市民が利益を受ける仕組みが2018年から始まっている。

